院内広報誌 SUMMER

こころの虹

か・け・は・し

OIKAWA HOSPITAL INFORMATION KOKORO no KAKEHASHI

ホームページ URL http://www.oikawahp.net　Eメール address info@oikawahp.net

編集・発行
医療法人 にゅうわ会
及川病院
〒810-0014
福岡市中央区平尾2丁目21-16
TEL 092-522-5411

No. 32　2014年06月 発行

患者様の権利と義務

患者様には「ご自身が生命の主人公」として、医療従事者とのよりよい人間関係を築いていけますよう以下の「守られていること」「守っていただきたいこと」があります。

人　格　権

患者様は個人としての人格、価値観などを尊重されます。

受　療　権

いつでも必要かつ十分な医療サービスを受けるために、医療機関を選択する権利があります。

知 る 権 利

病名、病状、診療計画、検査・手術、薬、必要な費用などについて、納得できるまで説明を受ける権利があります。
同時に、私たちに既往歴、現病歴、現在の治療内容、アレルギー歴など健康に関する情報を正確にお伝えください。

自己決定権

十分な説明を受け、理解した上で、提案された診療計画などを自らの意志で決める権利があります。
同時に、それらの内容に関する指示を守る義務があります。
納得できない場合は、他の医師や医療機関の意見を求めることができます。

プライバシーに関する権利

個人の秘密や医療に関する個人情報が守られ、私的なことにみだりに干渉されない権利があります。

参加する権利

診療内容や病院の運営につき苦情や意見を述べ、医療改善の活動に参加する権利があります。安全性を高めるためお名前の確認などにご協力ください。

「わかりやすい医療制度を」

今春は2年に一度の診療報酬改定の年でした。皆さんにご負担いただいている医療費はこうやって2年ごとに見直されています。勿論無駄のない、効率的な医療制度は必要ですが、「社会保障制度改革」の旗印のもとで抑制一点張りの改革にならないよう、私たちは注視しておかねばなりません。しかし実のところ制度は毎年毎年複雑になってきており、そのことを皆様にきちんとお伝えできているかどうか疑問に思うことがあります。説明会に私はじめ医事課スタッフ他現場の職員が参加しますが、専門家である私たちでさえ「解釈」に戸惑うことがあります。いわんや患者様方にはせいぜい新聞記事レベルの内容しか公表されませんから、窓口負担金の変更一つにしても「なぜ？」と思われるのではないでしょうか。そういうご説明も現状では各医療機関にまかせっきりになっていますから、窓口スタッフはなかなか大変です。医療も何となく政治の一部になってきているような気がするのは私だけでしょうか？
医療制度はどんどん複雑になってきていますが、医療そのものはご理解いただける努力を惜しんではいけません。治療は医療者が一方的に行うものではなく、患者様と共同して病に立ち向かうものです。現場では常に、わかっていただくことで不安を取り除く、このことを忘れずにいく所存です。

母の日乳がん検診応援キャンペーン

◎対　　象：「 母の日プレゼント 」ですが、既婚・未婚、新患・再来は問いません。
症状の無い方の検診に限ります。女性の方のみ

◎期　　間：平成２６年５月１日～６月３０日の間に受診された方。

◎予　　約：必ずお二人以上、同日同時間帯でご予約ください。
その際「母の日キャンペーンで申し込む」とお伝えください。

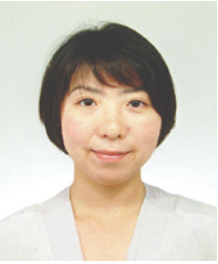
◎検診内容：『自費による乳がん検診』となります。
詳しい検診内容につきましてはご予約の際にお尋ねください。（医師の指定はできません。）

◎プレゼント：検診終了後に『バンフの森』のクッキーを受付にお渡しします。

申込予約はお電話で

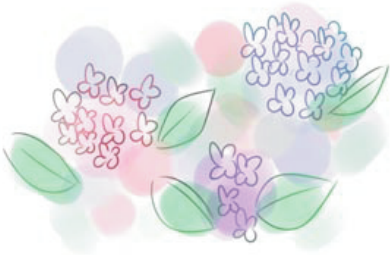
受付時間／ 9:00～17：00　　ＴＥＬ　092-522-5411

新任医師紹介



乳腺外科担当医
瀬戸口　優美香

＜学会・認定＞
日本外科学会専門医
日本乳癌学会乳腺認医



本年４月より、週１回水曜日の外来を担当させて頂いております。

出身地は岩手県、出身大学は東京女子医科大学で、部活は弓道部に所属しておりました。趣味は水泳です。

卒業後は東京女子医科大学東医療センターで研修を行い、その後同センター外科に入局致しました。当初は消化器を勉強したく外科に入局しましたが、乳腺班を回るうちに乳腺診療に興味を持つようになり従事するようになりました。

東日本で生活しておりましたが、昨年４月に、長崎出身である主人の希望で福岡に転居して参りました。土地感がなく、生活していた環境ががらりとかわり戸惑う事が多かったのですが、交通のアクセスの良さ、食文化の豊かさ、子育てのしやすさ、福岡の人柄のよさなどから今ではとても住みやすく感じております。

とはいえ慣れない事もまだあり、医師としても至らぬ点が多々ありご迷惑をおかけする事があると思いますが宜しくお願い致します。

乳腺外科担当医
田中　旬子

＜学会・認定＞
日本外科学会専門医
日本乳癌学会専門医

2014 年４月より、金曜日の外来を担当させていただいております田中旬子です。　九州大学第二外科に所属しており、昨年までは北九州の製鉄記念八幡病院に勤務しておりました。子育ての関係で、今年より福岡市民病院の非常勤とこちら及川病院にて勤務させて頂くこととなりました。専門医になってからは、どこの病院でも乳腺外科医として一人で孤軍奮闘してまいりましたので、ここ及川病院で及川先生はじめ久松先生方に囲まれて診療できますことは大変嬉しく有難く感じております。外来には最高に性能の良いデジタルマンモグラフィが設置され、超音波機械も高性能のものばかりで夢のようです。こちらの病院の外来医師として恥ずかしくないよう、真摯に診療にあたり、また女性として温かみのある優しい診療を行ってまいりたいと存じます。これからどうぞよろしくお願いいたします。

乳腺外科担当医
井川　明子

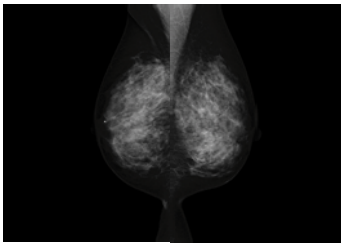
はじめまして、井川明子です。昨年度まで九州がんセンターの乳腺科でしたが、今年度は病理診断科所属となりました。今後の診療に生かすべく、現在は乳腺病理のみですが、毎日顕微鏡を前にこれまでとは全く違う生活を送っています。そのようなところ、乳腺の診療は続けていこうということで、月２回と少ないですがお世話になることになりました。病理で思うこと、気付いたことも生かしながら、この診療の場で実践できればと思っています。

さて私事ですが、東京育ち、弘前大学（青森）出身のところ、福岡に来て３年目となりました。今年のテーマは福岡のおいしいものを食べて、休みにはゆっくりできるところへ九州旅行をすることです。この２年間は行動力と決断力不足、、、今年こそはと思っています。今後ともよろしくお願いします。

桜まつり

４月も半ばの 14 日。少し遅ればせながら、当病院でもお花見を計画。
暖かな日差しが差し込む談話室に、ピンク色の八重桜の木が届き、桜まつりを開催しました。『花』の後は、さあ『団子』。
スタッフとわた飴作り、病棟師長が焼いたホットケーキ、桜茶など楽しみながらおしゃべりにも花が咲きました。クライマックスは稲光医師扮する花咲か爺さんの登場。
患者様の笑顔も満開となった甘い香りが漂うひとときでした。

マンモグラフィが新しくなりました



2014 年３月より FPD を搭載したデジタルマンモグラフィ装置を導入しました。
マンモグラフィは乳房を圧迫して行われるのですが、この圧迫は画質向上のためには欠かせないものではあるものの、患者様にとって最大の苦痛となっています。当院の装置は、痛みの少ない圧迫システムを採用しているため検査時の負担も軽減され患者様にとってやさしい検査機器となっております。解像力やコントラストがアップし、微細石灰化や腫瘤の描出に優れており、被ばく量を最小限に留めつつ高品質な画像を提供しています。また、デジタルシステムにすることによって、高精細モニターで画像の濃度やコントラスト、拡大率を変化させて画像診断することにより微小な異常の診断を可能にしています。

部署紹介 ～臨床検査～

超音波検査とは超音波（耳で聞こえる音よりも周波数が高い音）を用いて体の内部を観察する検査法です。「乳腺エコー」は乳腺がある皮膚面にゼリーを塗り、プローブ（超音波を発する探触子）をあてるだけなので痛くありません。超音波の反射波によって腫瘍が画像化され、形や内部の様子から診断します。
近年、日本では若い年齢層の乳がん患者が増加しています。若年者の乳腺は発達しているため、マンモグラフィーだけでの乳がん検査ではなく、乳腺超音波検査も併用することが重要だと考えられています。被爆の危険もありませんので、妊娠中の女性でも安心して乳がん検査を受けることができます。
検査を受けるにあたり不安や疑問の点はお気軽にお尋ねください。

連　載　　野村雍夫先生の"乳がんを知ろう"

第三十回 乳癌の再発（6）再発・転移の予測と予後因子　続き

顧問
野村雍夫

遺伝子の発現の話を続けます。少々難しいですが、後から出てくるサブタイプの話を理解していただくために我慢してください。

　ある乳癌がもっている多数の遺伝子のうち、特定の複数の遺伝子がどの程度発現しているか（発現量）の分布図、プロファイルを調べることにより、その乳癌の性質、すなわち、おとなしいか、たちが悪いか、転移しやすいか、さらにはどこに転移しやすいか、などが判ります。もっとも、1つや2つの遺伝子の発現で100%当たるわけではありません。数十の遺伝子の発現を算定して関連性を調べるのです（多遺伝子アッセイ）。

　遺伝子発現プロファイリングにより細胞内の遺伝子の発現量を測定するには、数千のDNA断片を基板上に配置し、乳癌細胞から抽出したmRNAと反応させ、細胞内で発現している遺伝子情報を検出するDNAマイクロアレイ解析が1つの方法です。SAGEという方法もあります。

　このような方法により、ある乳癌の遺伝子シグニチャー（ある細胞の状態に特徴的な発現パターンを示す遺伝子群の情報）を同定し、乳癌の予後や治療の効果を予測しようとする試みが行われてきました。

　再発・転移に関連する遺伝子群はホルモンレセプター（ER、PgR）、HER2（細胞表面に存在する糖タンパクで受容体型チロシンキナーゼであり、その過剰発現/増幅は乳癌の悪性の証拠であり、その抗体のトラスツズマブ（ハーセプチン）がHER2過剰発現/増幅の乳癌の治療に有効）、増殖、細胞周期、浸潤、血管新生に関与するものなどであります。このような遺伝子(群）の発現の有無、程度が乳癌の再発・転移を左右すると考えられています。

　正常乳腺と乳癌で発現している遺伝子を比較することにより、乳癌は乳腺細胞に類似したいくつかのサブタイプに分けられることが判明しました。元来,正常ヒト乳腺の乳管と腺房の上皮は,腺 腔に面する腺腔上皮細胞（ルミナール細胞）と基底膜に接する外層の基 底部細胞、ベーサル細胞（筋上皮細胞）の 2 層からなっており、それぞれの細胞は特有な遺伝子を発現しています。これらの細胞が癌化すると、正常の乳腺細胞に類似した遺伝子を発現することがあります。

　これまでの遺伝子発現プロファイル研究により、乳癌は次の5つの分子生物学的サブタイプに分類されるようになりました。ルミナールA、ルミナールB、HER2陽性、ベーサルライク、正常乳腺細胞様。最近もう一つのサブタイプ（低クラウディン）の存在が認められています。これらのサブタイプにより、前述の再発・転移に関連する遺伝子（群）の発現の有無、程度が異なると考えられます。

　次回からは、乳癌のサブタイプの説明とその具体的な応用について述べます。